

大学から11・6へのうねり

10・28



上：10月18日の法大包囲デモ

左：5月23日、福島の人びとが文科省へ抗議行動



法大包囲デモ×文科省抗議行動へ!

10月28日(金)

法大包囲デモ

12時30分 法大正門前集合

13時 デモ出発

文部科学省抗議行動

15時30分霞が関・文部科学省

* 福島・全国の学生とともに申し入れ行動を行います。

* 参加したい方はご連絡を♪

10月29日(土)

* 座り込みは27～29日の3日間

「原発いらない

福島の女たち

～100人の座り込み～」

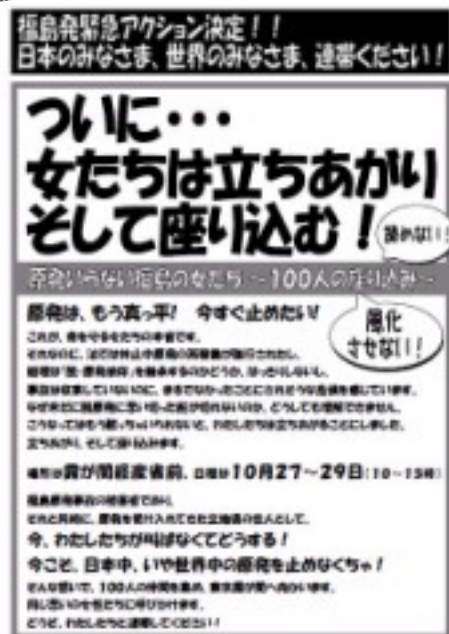
に合流しましょう

● 時間 10時～15時

* 最終日・29日はお昼休みにパレード

→ 全学連の青い旗の下に集まってください!

● 場所 霞が関・経済産業省前



11/6

もう黙ってられない! 今こそ声をあげよう!!

反原発一万人大デモへ!!

11月6日(日) 正午@東京日比谷野外音楽堂 (10:00～ 前段企画 青年学生反原発大集会)

全学連

全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)

TEL 050-3036-6464 mail_cn001@zengakuren.jp http://www.zengakuren.jp/

学生の行動が大学を動かす！

この間市ヶ谷キャンパス・富士見坂校舎の植え込みで高線量の放射能ホットスポット（0.65マイクロシーベルト/時）が発見された問題で、法大当局は「学祭実行委員会の要求を受け、25日に該当箇所の除染作業を行った」ことを明らかにしました。しかしその「除染」の中身とはなんと「キャンパス内の学生が決して立ち入らない場所に深い穴を掘り、そこに汚染された土を埋めた」ことだということです。いったいこれで「安全」「解決」などといえるでしょうか？絶対にそんなことはありません。富士見坂校舎では他の植え込みからもホットスポットが発見されており、キャンパス全体の汚染状況を明らかにし、除染を行うことが急務です。さらに言えば、根本原因である原発をいまずぐすべて停止・廃炉にすること以外に、どのような解決もありえないことは明らかです。

大学当局は当初から「放射線量が下がる場合対応する予定」（大学HPより）として、この問題に対する責任を放棄してきました。3・11からこの10月に至るまで半年以上も学生を被曝させ続け、それと並行して、東電や政府の責任を棚上げする一方で原発反対の署名活動には「カルト」というレッテルを貼り、法大生がキャンパスから行動することを押さえつけてきたのです。

しかし一方で、学生がひとたび声をあげて行動すれば、大学当局を動かすことができるということもまたはっきりしました。私たち学生が思いをひとつに行動したときに、変えられない現実などありません。仲間を放射能から守り、安全な環境で学祭を成功させるために、必要なのは学生の団結と行動です。当局にたいしてさらに声をあげ、ともに行動していきましょう！

原発再稼働を狙う野田政権を打倒しよう

そもそもなぜ私たち学生が、こうして日々キャンパスで被曝させられなければならないのでしょうか？福島の子が、キャンパス全体がホットスポットになっているなかで、友人が大学を去っていく、新たに迎える後輩が減ってしまう、...こうした現実と日々向きあいながら生活しなければならないのは、なんのためでしょうか？いっさいは、原発政策にあくまで固執し、9・19の6万人反原発大デモを前に「年内に原発を再稼働させる」と言い放った野田政権によってつくられ、強制されている現実です。

野田首相がやろうとしていることは原発の再稼働であり、「復興特区」という名での首切りや大合理化、これと一体で農業を資本の金儲けの道具に変えようとするTPPへの参加であり、沖縄への新たな米軍基地の建設強行です。こうした政府のありかた、社会のありかたそのものに対して真っ向から対決し、「経済」のために労働者や学生が踏みにじられる社会を根底から変革してゆく出発点が11・6集会です。11月6日、法大から多くの仲間とともに、全国労働者総決起集会・デモに集まりましょう！



左「労働者に犠牲を転嫁するな」
今月19～20日、ギリシャ史上最大規模の48時間ゼネスト

フクシマ・全世界と団結する11・6集会へ

まさに今、被災地をはじめ全国で、全世界で、膨大な数の人びとが行動にたちあがり始めています。今日26日には、TPP参加に反対して農民たちが東京で総決起集会を開催します。そして27日～29日には「原発いらない福島の女たち～100人の座り込み～」が、経済産業省の前で行われます。さらに、これをひきつぐ緊急全国アクションも、経産省前・全国各地で行われます。そして29日は今月15日に続く第2回目の全世界一斉行動日として、全世界のあらゆる都市から労働者・学生が「99%のわれわれが社会を変える！」と高らかに宣言し、デモにたちあがる日になろうとしています。

私たちのデモが歴史を動かす時代です。明日の法大包囲デモ・文科省抗議行動は、こうした福島の仲間、全世界の仲間の闘いとたく連帯し、私たち学生が大学から声をあげる日です。とりわけ文科省こそ、福島の子もたちに年間20ミリシーベルトという殺人的な基準値を強制するとともに、教育の民営化と一体で莫大な原子力予算を握って原発政策を推進してきた機関です。文科省に「教育を守れ！」「原発政策をやめろ！」「教育の民営化反対！」という怒りの声をたたきつけましょう。10・28～29日の爆発から、あらゆる力と思いを11・6へ！ともに、日比谷野音を埋め尽くす集会、銀座を埋め尽くすデモをやりましょう！

●11・6に参加する学生のメッセージ（神奈川・K大学）

学生は今こそ叫ぶべきだ！授業忙しい、バイトしないと学校行けない、資格をとっても意味がない、就職できない、生きていけない、そんな声が溢れてる。社会は、世界は変わるべきだ！散々低学力を言われて学校改革やってきて今の学校は結果を出せたのか？出せてない！言われたとおり就活にいそしみ、資格を取って報われたのか？報われてない！1人で生きていけるだけの賃金をもらえる仕事にも就けない！全部が自己責任と思わされてきた。でも世界の状況はそれが嘘だと言い切っている。3月11日以降の原発事故を見てなおも原発についての考え方をあいまいにし、さらには肯定的にしていって、その片棒を率先して担っている。大学で学ぶ知識も問われている！知識で揚げ足をとったり、嘘について現実をもみ消したりするのが大学教育なのか？絶対に違う！アメリカで、中国で、EUで、中東で、若者が立ちあがり声をあげた。日本では11月の日比谷で声をあげよう！この時代を生きる多くの学生と出会おう！